

湖南省小中学校日本語指導を必要とする児童生徒への支援体制

～公立学校における帰国・外国人児童生徒等に対するきめ細かな支援事業～

湖南省教育委員会

【現状と課題】

対象児童生徒が、市内全小中学校児童生徒の約6%を占めており、多い学校では20%を上回る学校もある。域内に散在している状況もあり、支援状況にばらつきがあるのが現状である。指導・支援体制を整備する必要がある。

【関係機関】

- 湖南省教育委員会
- 湖南省人権擁護課
- 湖南省子ども政策課
- 湖南省国際協会

【実施事業の概要】

＜湖南省主催行事の開催＞

- 外国にルーツのある児童生徒交流会（文化交流・なかまづくり、進路支援）（小学校3回・中学校1回）

＜日本語教室担当者会の実施＞

- 個別の指導計画の作成について
- 日本語初期指導教室（さくら教室）から、各学校の日本語教室へスムーズに移行できる体制づくりの研究

＜母語支援員の配置＞

- 日本語指導を必要とする児童生徒の在籍校への母語支援員の配置（学習支援・保護者支援・翻訳業務等）

【目標】

児童生徒交流会の参加者数の増加
小学校 90% 中学校 50%

「個別の教育課程」による
指導目標の達成 100%

該当校への母語支援員等の配置
100%

【期待される成果】

学校単独で事業を行うのではなく、中学校区や市全体で取組を進めることにより、持続的で発展的な取組が実現する。

モデル地域の取組を、本会議で共有することにより、個々の教職員のスキルアップが期待できる。

母語支援が必要な児童生徒が在籍する学校に定期的に『母語支援員』を派遣することで、学習支援・保護者支援等のきめ細かな支援を実現し、より効果的な教育実践を実現する。